

## 第3章

# 就労及びワーク・ライフ・バランス について

---



# 1. 職業選択

問6 あなたは、進路や職業を選択する際に、性別を意識しましたか。(○は1つ)

▶進路・職業選択の際に「ほとんど(全く)性別を意識しなかった」のは44.3%

進路や職業選択の際に性別を意識したかについて質問したところ、「ほとんど(全く)性別を意識しなかった」が44.3%と最も多く、次いで「どちらかと言えば性別を意識した」が20.2%、「どちらかと言えば性別を意識しなかった」が17.0%となっている。

長崎県調査(H26年)と比較してみると、「どちらかと言えば性別を意識しなかった」と「ほとんど(全く)性別を意識しなかった」を合わせた『性別を意識しなかった』の比率がやや増加している(H26年54.7%→R1年61.3%)。

性別にみると、『性別を意識しなかった』という回答は男性より女性の方が比率は低く17.2ポイントの差があり、男女間の意識の違いがみられる。

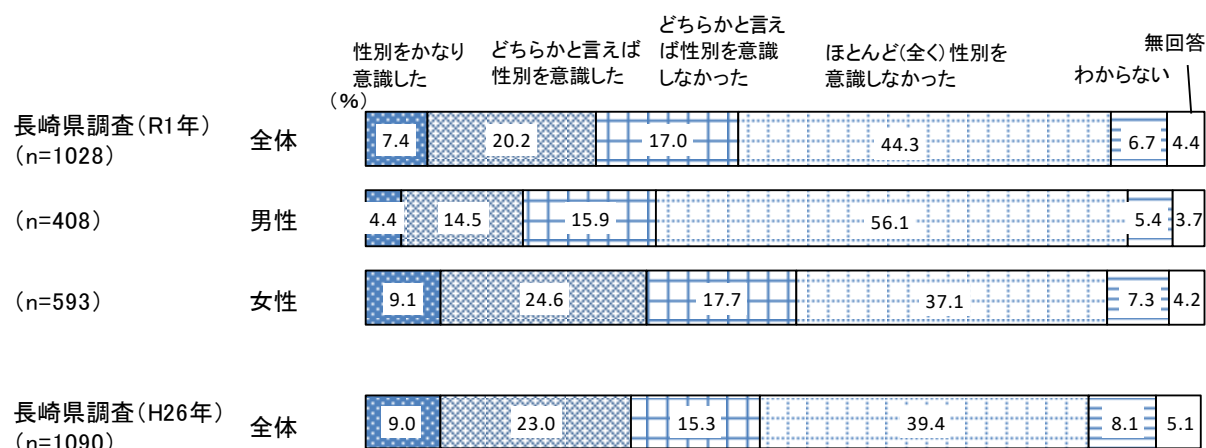


図3-1 進路や職業を選択する際に性別を意識したか

表3-1 進路や職業を選択する際に性別を意識したか

標本数		性別をかなり意識した	どちらかと言えば性別を意識した	どちらかと言えば性別を意識しなかった	ほとんど(全く)性別を意識しなかった	わからない	無回答	
		人	%	%	%	%	%	
全体	1028		7.4	20.2	17.0	44.3	6.7	4.4
性別	男性	408	4.4	14.5	15.9	56.1	5.4	3.7
	女性	593	9.1	24.6	17.7	37.1	7.3	4.2
年代別	20歳代	56	1.8	14.3	12.5	66.1	1.8	3.6
	30歳代	94	4.3	19.1	14.9	51.1	6.4	4.3
	40歳代	159	5.7	18.2	17.6	51.6	5.7	1.3
	50歳代	181	9.4	21.0	18.2	47.0	4.4	0.0
	60歳代	240	9.2	23.3	20.4	37.1	3.8	6.3
	70歳以上	279	7.2	20.8	14.0	39.8	12.2	6.1

## 2. 勤務先での性別による仕事や待遇面での差

問7 現在、働いている方へお尋ねします。

あなたの職場では、次にあげるそれぞれの場面で性別によって差があると思いますか。(〇は1つずつ)

▶ 全体的に「性別によって差はない」と考えている比率は48.1%と約半数

有職者に対して、勤務先での性別による仕事や待遇面での差について質問したところ、全ての項目で「性別によって差はない」との回答が最も多く、特に「教育や研修制度」ではその比率が最も高く64.3%であった。

性別にみると、「教育や研究制度」以外の全ての項目で女性の方が「性別によって差はない」と答えた割合が高くなっている。

一方で、男女ともに全ての項目で「男性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば男性の方が優遇」を合わせた割合が「女性の方が非常に優遇」「どちらかと言えば女性の方が優遇」を合わせた割合より高くなっている。

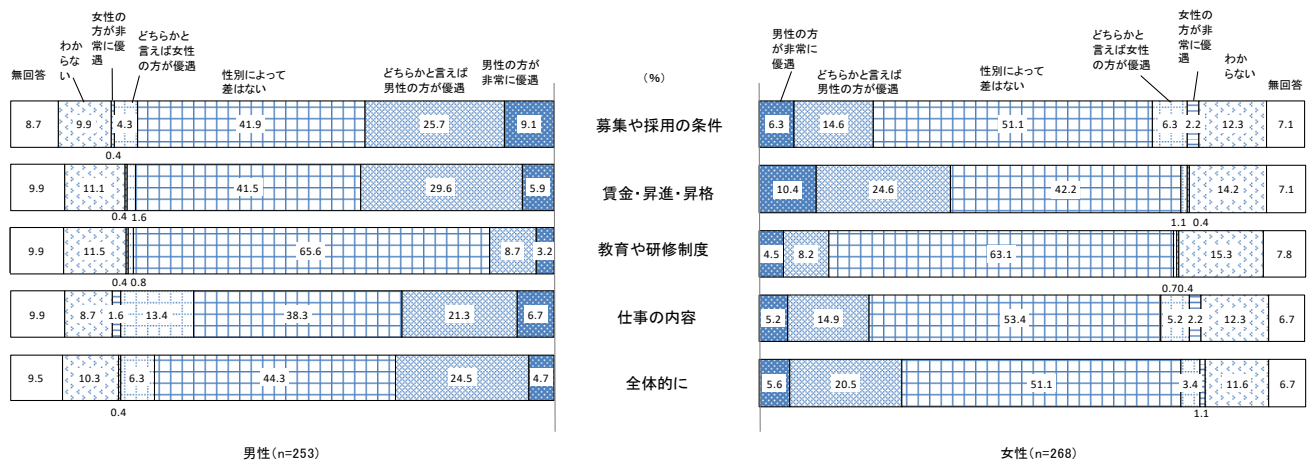


図 3-2 勤務先での性別による仕事や待遇面での差

表3-2 勤務先での性別による仕事や待遇面での差

	標本数	男性の方が非常に	どちらかと言えば男性の方が優遇	性別によって差はない	どちらかと言えば女性の方が優遇	女性の方が非常に優遇	わからない	無回答		
		優遇	優遇		優遇	優遇				
	人	%	%	%	%	%	%	%		
募集や採用の条件	全体	526	7.6	19.8	47.0	5.5	1.3	11.0	7.8	
	性別	男性	253	9.1	25.7	41.9	4.3	0.4	9.9	8.7
		女性	268	6.3	14.6	51.1	6.3	2.2	12.3	7.1
	年代別	20歳代	41	4.9	9.8	53.7	12.2	2.4	14.6	2.4
		30歳代	72	11.1	18.1	52.8	5.6	1.4	8.3	2.8
		40歳代	125	7.2	24.8	49.6	8.0	0.0	8.0	2.4
		50歳代	123	8.1	17.9	56.1	4.9	2.4	9.8	0.8
		60歳代	107	8.4	20.6	40.2	2.8	1.9	14.0	12.1
		70歳以上	58	3.4	20.7	22.4	1.7	0.0	15.5	36.2
	賞金・昇進・昇格	全体	526	8.2	27.2	42.0	1.3	0.4	12.5	8.4
性別		男性	253	5.9	29.6	41.5	1.6	0.4	11.1	9.9
		女性	268	10.4	24.6	42.2	1.1	0.4	14.2	7.1
年代別		20歳代	41	7.3	24.4	51.2	0.0	0.0	14.6	2.4
		30歳代	72	8.3	27.8	47.2	1.4	0.0	12.5	2.8
		40歳代	125	8.8	31.2	47.2	3.2	0.0	6.4	3.2
		50歳代	123	8.1	28.5	49.6	0.8	1.6	10.6	0.8
		60歳代	107	8.4	27.1	31.8	0.9	0.0	20.6	11.2
		70歳以上	58	6.9	17.2	20.7	0.0	0.0	13.8	41.4
教育や研修制度		全体	526	3.8	8.6	64.3	1.0	0.4	13.3	8.7
	性別	男性	253	3.2	8.7	65.6	0.8	0.4	11.5	9.9
		女性	268	4.5	8.2	63.1	0.7	0.4	15.3	7.8
	年代別	20歳代	41	2.4	4.9	70.7	2.4	0.0	17.1	2.4
		30歳代	72	2.8	6.9	70.8	1.4	0.0	15.3	2.8
		40歳代	125	4.8	10.4	74.4	1.6	0.0	6.4	2.4
		50歳代	123	4.1	9.8	74.0	0.8	1.6	8.9	0.8
		60歳代	107	4.7	7.5	52.3	0.0	0.0	22.4	13.1
		70歳以上	58	1.7	8.6	31.0	0.0	0.0	15.5	43.1
	仕事の内容	全体	526	5.9	18.1	46.2	9.3	1.9	10.5	8.2
性別		男性	253	6.7	21.3	38.3	13.4	1.6	8.7	9.9
		女性	268	5.2	14.9	53.4	5.2	2.2	12.3	6.7
年代別		20歳代	41	7.3	7.3	58.5	2.4	4.9	17.1	2.4
		30歳代	72	5.6	15.3	50.0	15.3	1.4	9.7	2.8
		40歳代	125	8.0	22.4	49.6	12.0	1.6	4.0	2.4
		50歳代	123	4.9	16.3	52.8	11.4	1.6	12.2	0.8
		60歳代	107	6.5	22.4	39.3	4.7	1.9	13.1	12.1
		70歳以上	58	1.7	15.5	24.1	5.2	1.7	12.1	39.7
全体的に		全体	526	5.1	22.4	48.1	4.8	0.8	10.8	8.0
	性別	男性	253	4.7	24.5	44.3	6.3	0.4	10.3	9.5
		女性	268	5.6	20.5	51.1	3.4	1.1	11.6	6.7
	年代別	20歳代	41	2.4	19.5	56.1	2.4	0.0	17.1	2.4
		30歳代	72	5.6	23.6	51.4	5.6	1.4	11.1	1.4
		40歳代	125	5.6	29.6	49.6	7.2	0.0	6.4	1.6
		50歳代	123	4.1	22.8	56.1	4.1	1.6	10.6	0.8
		60歳代	107	7.5	20.6	42.1	2.8	0.9	14.0	12.1
		70歳以上	58	3.4	10.3	29.3	5.2	0.0	10.3	41.4

### 3. 現在働いていない理由

問8 現在、働いていない人へお尋ねします。  
あなたが働いていない理由に近いものに○をつけてください。(○は1つ)

#### ▶働いていない理由は「高齢である」が47.3%

現在働いていない人に対してその理由を質問したところ、「高齢である」が47.3%と最も多く、次いで「自分の健康に自信がない」が8.8%、「経済的に働く必要がない」が6.9%となっている。長崎県調査(H26年)と比較すると、「高齢である」は増加し(34.0%→47.3%)、「適当な仕事が見つからない」は減少している(8.8%→4.4%)。

性別、年代別で比較すると、20歳代は「現在、学校に通っている」が54.5%と最も多い。30歳代と40歳代の女性は「家事や育児がおろそかになる」(35.7%、33.3%)が最も多く、40歳代の女性では、次いで「自分の健康に自信がない」が26.7%となっている。50歳代は「適当な仕事が見つからない」「自分の健康に自信がない」「高齢者や病人の介護がおろそかになる」がともに19.0%と最も多い。60歳代は男性で「その他」(23.8%)、女性で「高齢である」(30.3%)がそれぞれ最も多く、これに次いで男性では「高齢である」(19.0%)、女性では「自分の健康に自信がない」(18.2%)がそれぞれ多い。70歳代は男女ともに「高齢である」が最も多く(男性66.1%、女性82.2%)、これに次いで男女ともに「経済的に働く必要がない」(男性6.5%、女性3.0%)が続いている。

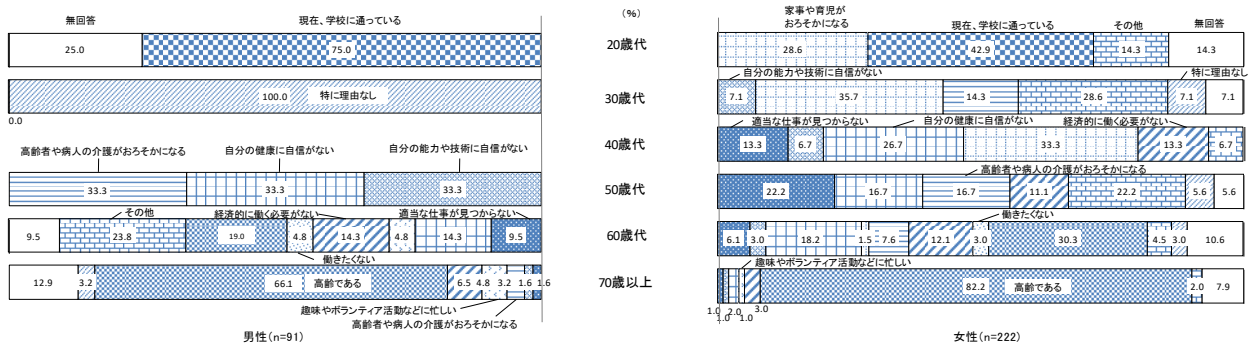


図 3-3 現在働いていない理由

表3-3 現在働いていない理由

標本数		人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
		人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
全 体		317	4.4	2.2	8.8	4.1	4.1	1.6	6.9	0.9	1.9	47.3	6.3	2.2	9.1	
性別	男性	91	3.3	2.2	4.4	0.0	3.3	4.4	7.7	1.1	3.3	49.5	5.5	3.3	12.1	
	女性	222	5.0	2.3	9.9	5.9	4.5	0.5	6.8	0.9	1.4	46.4	6.8	1.8	8.1	
年代別×男女別	20歳代	全体	11	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	54.5	0.0	9.1	0.0	18.2
		男性	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	25.0
		女性	7	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	14.3	0.0	14.3
	30歳代	全体	15	0.0	6.7	0.0	33.3	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.7	13.3	6.7
		男性	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		女性	14	0.0	7.1	0.0	35.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	7.1	7.1
	40歳代	全体	15	13.3	6.7	26.7	33.3	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
		男性	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	15	13.3	6.7	26.7	33.3	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0
	50歳代	全体	21	19.0	4.8	19.0	0.0	19.0	0.0	9.5	0.0	0.0	0.0	19.0	4.8	4.8
		男性	3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	18	22.2	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	22.2	5.6	5.6
	60歳代	全体	90	6.7	2.2	18.9	1.1	5.6	1.1	12.2	3.3	0.0	27.8	8.9	2.2	10.0
		男性	21	9.5	0.0	14.3	0.0	0.0	4.8	14.3	4.8	0.0	19.0	23.8	0.0	9.5
		女性	66	6.1	3.0	18.2	1.5	7.6	0.0	12.1	3.0	0.0	30.3	4.5	3.0	10.6
	70歳以上	全体	164	1.2	1.2	1.2	0.0	1.2	2.4	4.3	0.0	0.0	76.2	1.2	1.2	9.8
		男性	62	1.6	1.6	0.0	0.0	3.2	4.8	6.5	0.0	0.0	66.1	0.0	3.2	12.9
		女性	101	1.0	1.0	2.0	0.0	0.0	1.0	3.0	0.0	0.0	82.2	2.0	0.0	7.9
未既婚別	結婚している	211	5.2	2.4	9.0	5.7	5.2	2.4	7.1	1.4	0.0	44.1	7.1	2.4	8.1	
	離別・死別	67	4.5	1.5	6.0	1.5	0.0	0.0	7.5	0.0	0.0	70.1	0.0	0.0	9.0	
	未婚	33	0.0	3.0	15.2	0.0	6.1	0.0	6.1	0.0	18.2	18.2	15.2	6.1	12.1	
H26年	全 体	421	8.8	2.6	6.9	5.2	5.0	2.1	3.3	1.2	4.5	34.0	8.1	3.8	14.5	
	性別															
	男性	134	7.5	2.2	9.7	0.0	1.5	3.7	1.5	1.5	3.0	36.6	8.2	4.5	20.1	
女性	285	9.5	2.8	5.3	7.7	6.7	1.4	4.2	1.1	5.3	33.0	8.1	3.5	11.6		

## 4. 今後の就労の意向

問 8 - 1 現在、働いていない人へお尋ねします。

あなたは今後、働きたいと思いますか。(○は1つ)

### ▶20～40 歳代の多くは「働きたい」

全体では「すぐにでも働きたい」との意向は、若い層ほど高く、20 歳代で 27.3%、30 歳代、40 歳代ともに 13.3%を占め、「そのうち働きたい」と合わせた就労の意向は 20 歳代では 7 割、30 歳代では 8 割以上に上る。長崎県調査 (H26 年) と比較すると、「すぐにでも働きたい」は男女ともに減少し (男性 10.4%→5.5%、女性 13.3%→7.2%)、「働くつもりはない」は女性で増加している (33.7%→41.4%)。

性別、年代別で比較すると、20 歳代、30 歳代の女性では「すぐにでも働きたい」「そのうち働きたい」を合わせると約 9 割に上り、就労の意向は高い。「働くつもりはない」は 50 歳代以上で回答がみられ、年齢が高くなるにつれてその比率も増加する傾向にある。

問 8「働いていない理由」で「家事や育児がおろそかになる」が多かった 30 歳代の女性では、就労の意向が比較的高くなっている。

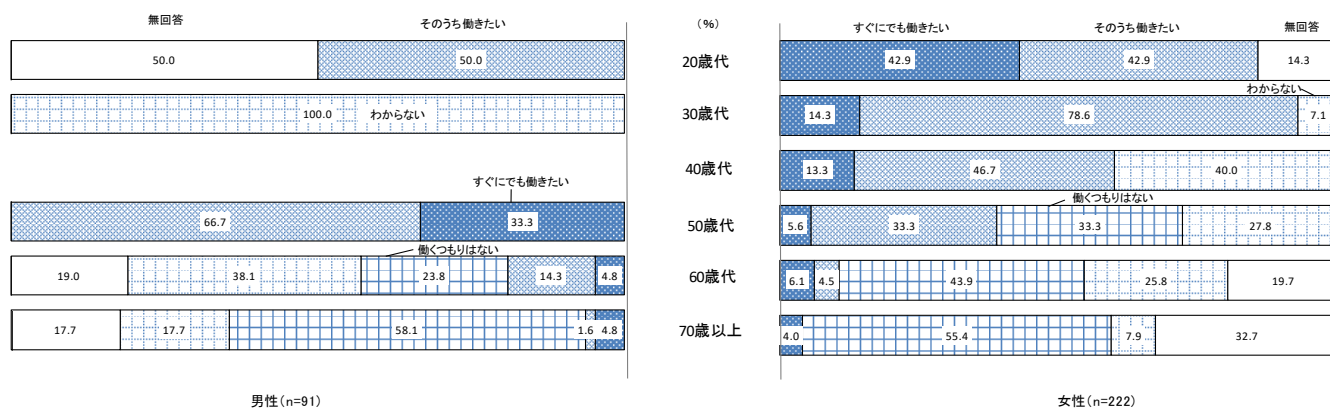


図 3-4 今後の就労の意向



表3-4 今後の就労の意向

標本数		すぐにも働きたい	そのうち働きたい	働くつもりはない	わからない	無回答		
		人	%	%	%	%		
全 体		317	6.6	12.6	42.3	18.3	20.2	
性別	男性	91	5.5	8.8	45.1	22.0	18.7	
	女性	222	7.2	13.5	41.4	16.7	21.2	
年代別 × 男女別	20歳代	全体	11	27.3	45.5	0.0	0.0	27.3
		男性	4	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
		女性	7	42.9	42.9	0.0	0.0	14.3
	30歳代	全体	15	13.3	73.3	0.0	13.3	0.0
		男性	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		女性	14	14.3	78.6	0.0	7.1	0.0
	40歳代	全体	15	13.3	46.7	0.0	40.0	0.0
		男性	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	15	13.3	46.7	0.0	40.0	0.0
	50歳代	全体	21	9.5	38.1	28.6	23.8	0.0
		男性	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
		女性	18	5.6	33.3	33.3	27.8	0.0
	60歳代	全体	90	5.6	7.8	38.9	28.9	18.9
		男性	21	4.8	14.3	23.8	38.1	19.0
		女性	66	6.1	4.5	43.9	25.8	19.7
	70歳以上	全体	164	4.3	1.2	56.1	11.6	26.8
		男性	62	4.8	1.6	58.1	17.7	17.7
		女性	101	4.0	0.0	55.4	7.9	32.7
	未既婚別	結婚している	211	6.2	13.3	40.8	20.9	19.0
		離別・死別	67	3.0	4.5	59.7	11.9	20.9
		未婚	33	18.2	27.3	21.2	15.2	18.2
H 2 6 年	全 体	421	12.4	15.2	38.0	14.0	20.4	
	性別	男性	134	10.4	7.5	47.0	9.0	26.1
		女性	285	13.3	18.9	33.7	16.5	17.5

## 5. 希望する就労形態

問8-2 問8-1で「すぐにでも働きたい」または「そのうち働きたい」と答えた方へお尋ねします。

あなたはどのような形で働きたいですか。(○は1つ)

▶希望する就労形態は「非正規社員(パート・アルバイト・派遣社員等)」が67.2%

現在、働いていないが、今後働きたいと答えている人に、希望する就労形態を尋ねたところ、20歳代では「正社員」が75.0%に上ったが、30歳代以上では「非正規社員(パート・アルバイト・派遣社員等)」が最も多く5~8割を占めている。なお、60歳代以上では「正社員」との回答はなかった。長崎県調査(H26年)と比較すると、「非正規社員(パート・アルバイト・派遣社員等)」(H26年調査ではパートタイム・アルバイト・嘱託等)が男女ともに増加している(男性41.7%→53.8%、女性58.7%→71.7%)。

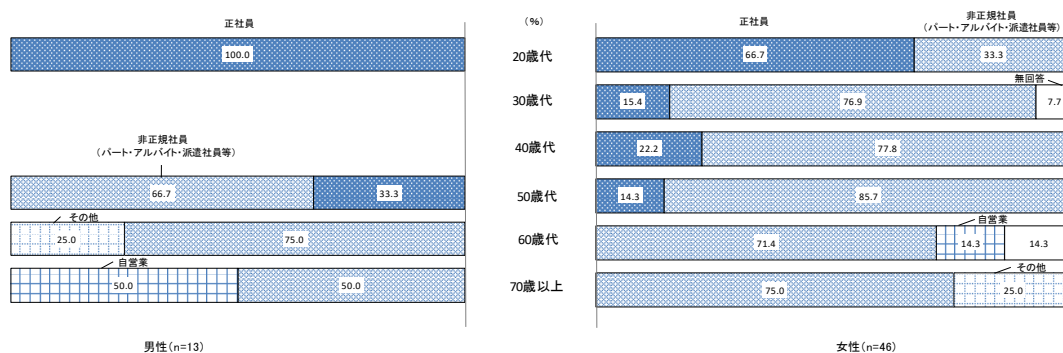


図 3-5 希望する就労形態

表3-5 希望する就労形態

標本数		正社員	非正規社員(パート・アルバイト・派遣社員等)	自営業	その他	無回答		
人		%	%	%	%	%		
全 体		61	19.7	67.2	6.6	3.3	3.3	
性別	男性	13	23.1	53.8	15.4	7.7	0.0	
	女性	46	19.6	71.7	2.2	2.2	4.3	
年代別×男女別	20歳代	全体	8	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
		男性	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	6	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代	全体	13	15.4	76.9	0.0	0.0	7.7
		男性	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	13	15.4	76.9	0.0	0.0	7.7
	40歳代	全体	9	22.2	77.8	0.0	0.0	0.0
		男性	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		女性	9	22.2	77.8	0.0	0.0	0.0
	50歳代	全体	10	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0
		男性	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
		女性	7	14.3	85.7	0.0	0.0	0.0
	60歳代	全体	12	0.0	75.0	8.3	8.3	8.3
		男性	4	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0
		女性	7	0.0	71.4	14.3	0.0	14.3
	70歳以上	全体	9	0.0	55.6	33.3	11.1	0.0
		男性	4	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
		女性	4	0.0	75.0	0.0	25.0	0.0
未婚別	結婚している	41	7.3	78.0	7.3	2.4	4.9	
	離別・死別	5	0.0	60.0	20.0	20.0	0.0	
	未婚	15	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	

標本数		常勤(フルタイム)	パート・アルバイト・嘱託等	在宅勤務	事業経営	その他	無回答		
H 2 6 年	全 体	116	33.6	55.2	4.3	1.7	2.6	2.6	
	性別	男性	24	54.2	41.7	0.0	0.0	0.0	4.2
		女性	92	28.3	58.7	5.4	2.2	3.3	2.2

## 6. 望ましいワーク・ライフ・バランス

問9 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」に関して、(1)～(3)のそれぞれについて最も近いものはどれですか。(○は1つずつ)

### (1) 女性にとって望ましい形

▶女性にとって望ましい形は「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が64.7%

「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）の女性にとって望ましい形について尋ねたところ、「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が64.7%と最も多く、次いで「仕事より家庭生活又は地域活動を優先」が18.1%であった。長崎県調査（H26年）と比較すると、大きな変化はみられない。

性別、年代別で比較すると、全ての年代で男女ともに「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が最も多くなっている。また「両立」は、30歳代以下では男性が女性を上回っているが、40歳以上では女性が男性を上回っている。一方、「仕事より家庭生活又は地域活動を優先」は30歳代以下では女性が男性を上回り、40歳代から60歳代では男性が女性を上回っている。また、50歳代では「両立」が77.3%（男性76.4%、女性78.0%）と特に高く、30歳代では「家庭生活又は地域活動を優先」が28.7%（男性26.5%、女性30.5%）と他の年代と比べてやや高くなっている。

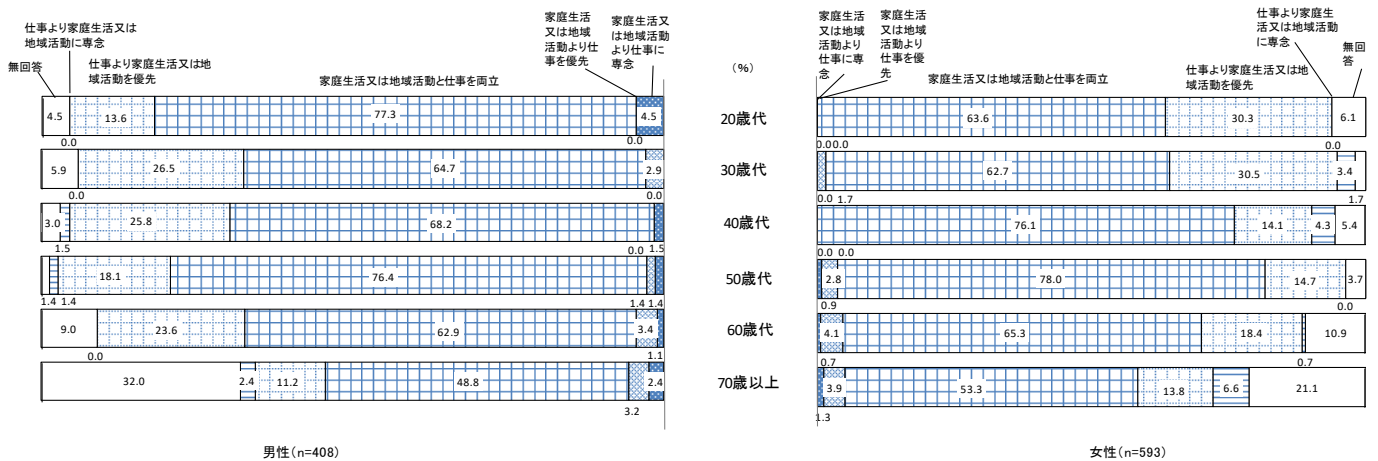


図 3-6 女性にとって望ましい形

表3-6 女性にとって望ましい形

標本数		家庭生活又は地域活動より仕事に専念	家庭生活又は地域活動より仕事を優先	家庭生活又は地域活動と仕事を両立	仕事より家庭生活又は地域活動を優先	仕事より家庭生活又は地域活動に専念	無回答		
		人	%	%	%	%	%		
全 体		1028	1.1	2.5	64.7	18.1	2.2	11.4	
性別	男性	408	1.7	2.2	62.7	18.9	1.2	13.2	
	女性	593	0.7	2.7	65.9	17.7	2.9	10.1	
年代別×男女別	20歳代	全体	56	1.8	0.0	69.6	23.2	0.0	5.4
		男性	22	4.5	0.0	77.3	13.6	0.0	4.5
		女性	33	0.0	0.0	63.6	30.3	0.0	6.1
	30歳代	全体	94	0.0	2.1	63.8	28.7	2.1	3.2
		男性	34	0.0	2.9	64.7	26.5	0.0	5.9
		女性	59	0.0	1.7	62.7	30.5	3.4	1.7
	40歳代	全体	159	0.6	0.0	72.3	19.5	3.1	4.4
		男性	66	1.5	0.0	68.2	25.8	1.5	3.0
		女性	92	0.0	0.0	76.1	14.1	4.3	5.4
	50歳代	全体	181	1.1	2.2	77.3	16.0	0.6	2.8
		男性	72	1.4	1.4	76.4	18.1	1.4	1.4
		女性	109	0.9	2.8	78.0	14.7	0.0	3.7
	60歳代	全体	240	0.8	3.8	64.6	20.0	0.8	10.0
		男性	89	1.1	3.4	62.9	23.6	0.0	9.0
		女性	147	0.7	4.1	65.3	18.4	0.7	10.9
	70歳以上	全体	279	1.8	3.6	51.6	12.5	4.7	25.8
		男性	125	2.4	3.2	48.8	11.2	2.4	32.0
		女性	152	1.3	3.9	53.3	13.8	6.6	21.1
未婚別	結婚している	714	1.1	2.5	65.4	19.3	2.0	9.7	
	離別・死別	144	0.7	1.4	60.4	18.1	2.8	16.7	
	未婚	136	0.7	3.7	69.1	14.0	3.7	8.8	
H26年	全 体	1090	0.6	2.5	62.8	20.5	3.3	10.4	
	性別	男性	455	0.2	2.2	62.6	19.3	3.7	11.9
	女性	607	0.8	2.6	62.6	21.9	3.1	8.9	

## (2) 男性にとって望ましい形

▶男性にとって望ましい形は「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が 58.7%

「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と生活の調和）の男性にとって望ましい形について尋ねたところ、「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が 58.7%と最も多く、次いで「家庭生活又は地域活動より仕事を優先」が 22.0%であった。長崎県調査（H26年）と比較すると、「両立」はやや増加し（50.2%→58.7%）、「仕事を優先」はやや減少しており（29.2%→22.0%）、性別でみると男性の変化がより大きくなっている。

性別、年代別で比較すると、いずれの年代でも男女ともに「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が最も多く、40歳代と50歳代では特に高く、約7割を占めている。次いで「家庭生活又は地域活動より仕事を優先」が続いている。また、「両立」は全ての年代で男性が女性を上回っている。

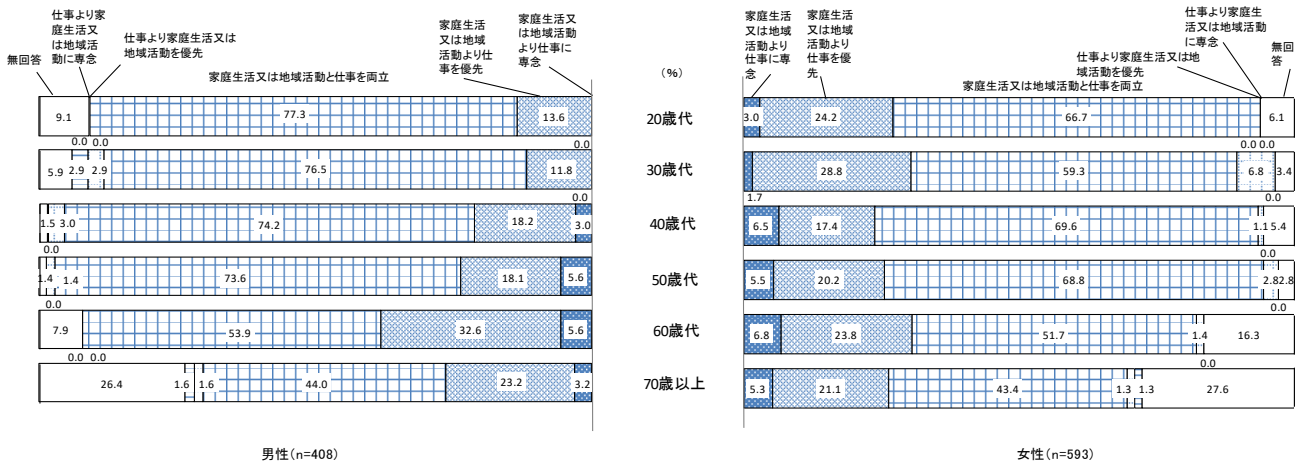


図 3-7 男性にとって望ましい形

表3-7 男性にとって望ましい形

標本数		家庭生活又は地域活動より仕事に専念	家庭生活又は地域活動より仕事を優先	家庭生活又は地域活動と仕事を両立	仕事より家庭生活又は地域活動を優先	仕事より家庭生活又は地域活動に専念	無回答		
		人	%	%	%	%	%		
全体		1028	4.6	22.0	58.7	1.8	0.5	12.5	
性別	男性	408	3.7	22.1	60.8	1.5	0.7	11.3	
	女性	593	5.4	22.1	57.0	2.0	0.3	13.2	
年代別×男女別	20歳代	全体	56	1.8	21.4	69.6	0.0	0.0	7.1
		男性	22	0.0	13.6	77.3	0.0	0.0	9.1
		女性	33	3.0	24.2	66.7	0.0	0.0	6.1
	30歳代	全体	94	1.1	22.3	66.0	5.3	1.1	4.3
		男性	34	0.0	11.8	76.5	2.9	2.9	5.9
		女性	59	1.7	28.8	59.3	6.8	0.0	3.4
	40歳代	全体	159	5.0	17.6	71.7	1.9	0.0	3.8
		男性	66	3.0	18.2	74.2	3.0	0.0	1.5
		女性	92	6.5	17.4	69.6	1.1	0.0	5.4
	50歳代	全体	181	5.5	19.3	70.7	2.2	0.0	2.2
		男性	72	5.6	18.1	73.6	1.4	0.0	1.4
		女性	109	5.5	20.2	68.8	2.8	0.0	2.8
	60歳代	全体	240	6.3	26.7	53.3	0.8	0.0	12.9
		男性	89	5.6	32.6	53.9	0.0	0.0	7.9
		女性	147	6.8	23.8	51.7	1.4	0.0	16.3
	70歳以上	全体	279	4.3	22.2	43.4	1.4	1.4	27.2
		男性	125	3.2	23.2	44.0	1.6	1.6	26.4
		女性	152	5.3	21.1	43.4	1.3	1.3	27.6
未婚別	結婚している	714	4.2	23.5	59.8	1.8	0.7	9.9	
	離別・死別	144	5.6	25.0	47.9	1.4	0.0	20.1	
	未婚	136	5.9	12.5	69.1	2.2	0.0	10.3	
H26年	全体	1090	6.5	29.2	50.2	2.1	0.5	11.6	
	男性	455	8.1	31.2	48.8	1.8	0.7	9.5	
	女性	607	5.4	27.5	51.6	2.5	0.3	12.7	

### (3) あなたの現在の状況

▶男女ともに現在の状況は「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が約3割

「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活の調和)の現在の状況について尋ねたところ、男性では「家庭生活又は地域活動より仕事を優先」が33.8%と最も多く、次いで「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が31.6%であった。女性では「両立」(33.7%)が最も多く、次いで「仕事より家庭生活又は地域活動を優先」(18.4%)であった。長崎県調査(H26年)と比較すると、男性では「仕事を優先」はやや増加し(29.5%→33.8%)、女性では「仕事より家庭生活又は地域活動に専念」はやや減少した(20.4%→14.8%)。

性別、年代別で比較すると、20歳代、60歳以上の男性では「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」が最も多いのに対し、30歳代～50歳代の男性では「家庭生活又は地域活動より仕事を優先」が約5割を占め、最も多くなっている。また、女性では30歳代を除く全ての年代で「両立」が最も多いが、30歳代の女性では「仕事より家庭生活又は地域活動を優先」が約3割を占め、最も多くなっている。

男女にとって望ましい形と現在の状況を比べると、男女ともに「家庭生活又は地域活動と仕事を両立」を望ましい形とする比率は6割以上を占めているのに対し、現在の状況では約3割にとどまっている。また、「家庭生活又は地域活動より仕事を優先」は男女ともに現在の状況の比率が望ましい形と考える比率を大きく上回っている。

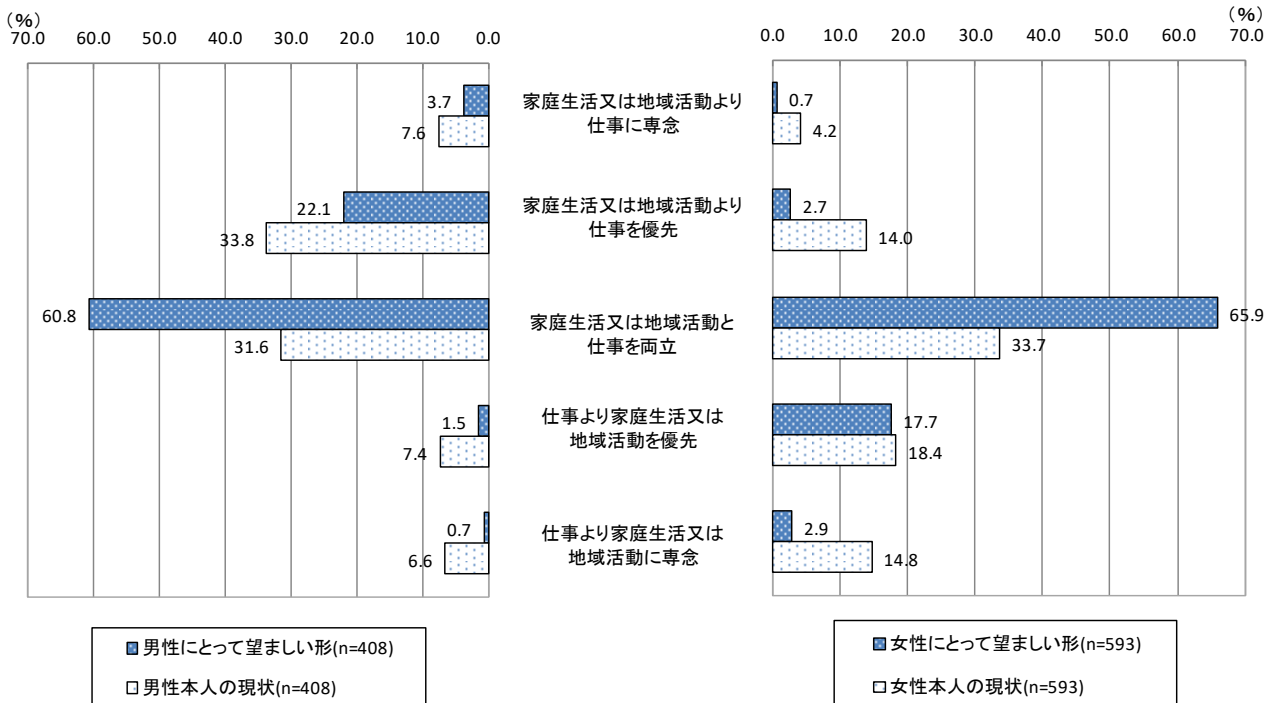


図 3-8 男女にとって望ましい形と現在の状況



表3-8 現在の状況

標本数		家庭生活又は地域活動より仕事に専念	家庭生活又は地域活動より仕事を優先	家庭生活又は地域活動と仕事を両立	仕事より家庭生活又は地域活動を優先	仕事より家庭生活又は地域活動に専念	無回答		
		人	%	%	%	%	%		
全体		1028	5.4	22.6	32.8	13.8	11.3	14.1	
性別	男性	408	7.6	33.8	31.6	7.4	6.6	13.0	
	女性	593	4.2	14.0	33.7	18.4	14.8	14.8	
年代別×男女別	20歳代	全体	56	7.1	30.4	46.4	1.8	8.9	5.4
		男性	22	9.1	36.4	40.9	0.0	9.1	4.5
		女性	33	6.1	27.3	48.5	3.0	9.1	6.1
	30歳代	全体	94	5.3	33.0	27.7	19.1	9.6	5.3
		男性	34	8.8	52.9	29.4	2.9	0.0	5.9
		女性	59	3.4	22.0	25.4	28.8	15.3	5.1
	40歳代	全体	159	7.5	33.3	34.6	13.8	6.3	4.4
		男性	66	13.6	50.0	31.8	1.5	0.0	3.0
		女性	92	3.3	20.7	37.0	22.8	10.9	5.4
	50歳代	全体	181	4.4	29.8	43.1	12.2	7.2	3.3
		男性	72	5.6	50.0	34.7	5.6	2.8	1.4
		女性	109	3.7	16.5	48.6	16.5	10.1	4.6
	60歳代	全体	240	6.3	20.4	32.5	15.0	11.7	14.2
		男性	89	7.9	31.5	37.1	7.9	5.6	10.1
		女性	147	5.4	13.6	30.6	18.4	15.0	17.0
	70歳以上	全体	279	4.3	7.2	24.4	15.1	17.9	31.2
		男性	125	4.8	12.0	24.8	13.6	14.4	30.4
		女性	152	3.9	2.6	24.3	16.4	21.1	31.6
	未既婚別	結婚している	714	4.3	21.7	36.1	15.1	11.9	10.8
		離別・死別	144	5.6	16.0	20.8	16.7	13.2	27.8
		未婚	136	11.8	33.1	28.7	5.1	8.8	12.5
H26年	全体	1090	6.8	20.7	31.7	13.6	14.2	12.9	
	性別	男性	455	9.9	29.5	32.3	9.5	5.9	13.0
		女性	607	4.8	14.5	31.0	16.8	20.4	12.5

## 7. 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

問10 あなたは、男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を実現させるためには、今後、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

### ▶ 「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために必要なのは多様な環境整備

男女がともに「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を実現させるために必要なことについて質問したところ、「労働時間の短縮、フレックスタイム制（自由勤務時間制）、在宅勤務制等を導入する」が34.1%と最も多く、次いで「女性が働くことに対する、家族や職場など周囲の理解・協力を深める」が31.0%、「男性が家事や育児、介護へ参加する」が30.4%であった。このことから、ワーク・ライフ・バランスの実現には柔軟な勤務制度、育児や介護の環境の整備が不可欠であることがうかがえる。

性別にみると、女性は特に「女性が働くことに対する、家庭や職場など周囲の理解・協力を深める」「『子の看護休暇制度』、『介護休暇制度』の取得を促進する」が男性の比率を大きく上回っている。女性にとって、制度の整備とともに周囲の理解や男性の家事や育児への役割分担が強く望まれている。一方、男性は「雇用・労働条件での男女間格差を是正する」で女性の比率を大きく上回っている。

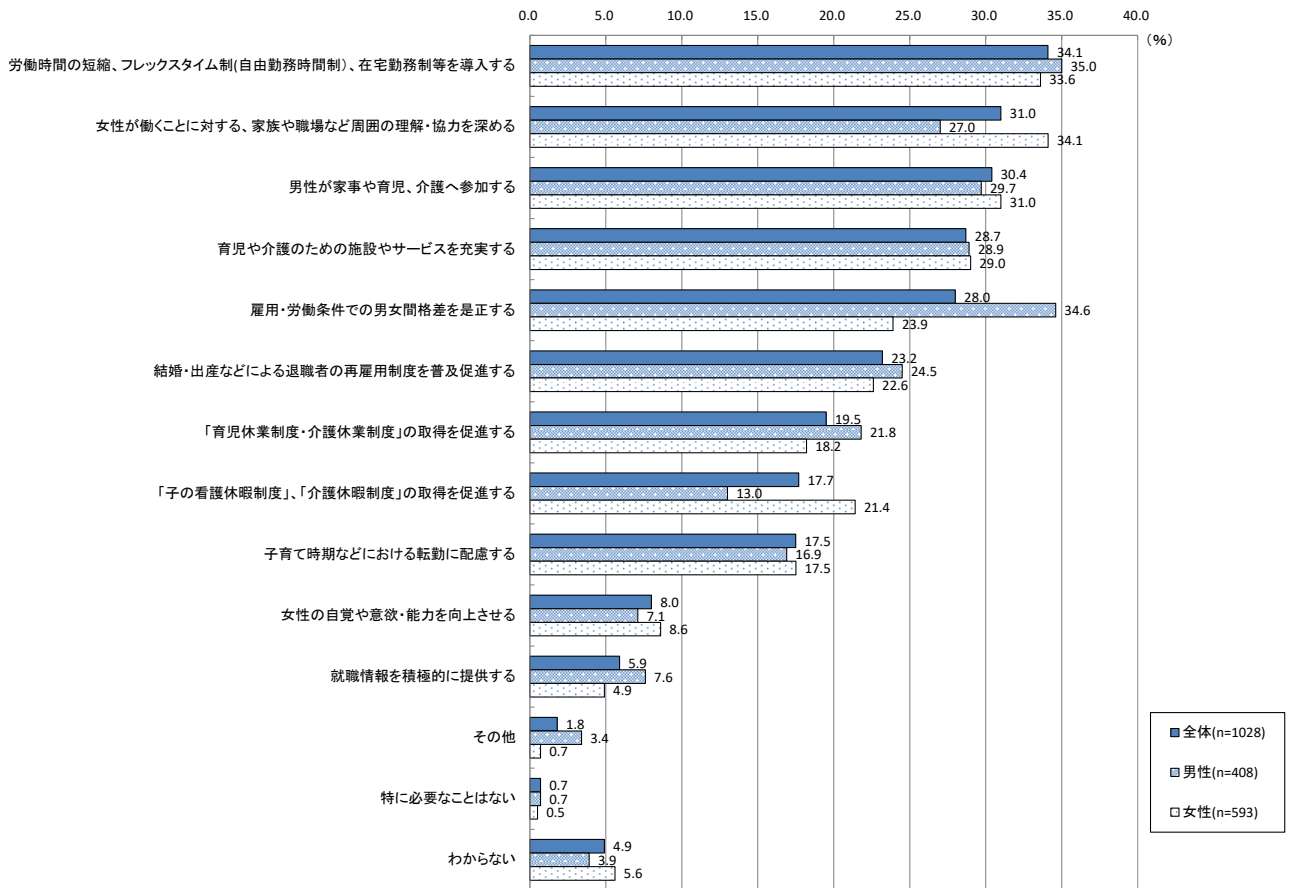


図 3-9 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

表3-9 男女がともにワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なこと

標本数	人	必要なこと														
		雇用・労働条件での男女間格差を是正する	労働時間の短縮、フレックスタイム制(自由勤務時間制)、在宅勤務制等を導入する	「育児休業制度・介護休業制度」の取得を促進する	「子の看護休暇制度」、「介護休暇制度」の取得を促進する	子育て時期などにおける転動に配慮する	男性が家事や育児、介護へ参加する	職場など周囲の理解・協力を深める	育児や介護のための施設やサービスを充実する	結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する	就職情報を積極的に提供する	女性の自覚や意欲・能力を向上させる	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
全体	1028	28.0	34.1	19.5	17.7	17.5	30.4	31.0	28.7	23.2	5.9	8.0	1.8	0.7	4.9	4.8
性別																
男性	408	34.6	35.0	21.8	13.0	16.9	29.7	27.0	28.9	24.5	7.6	7.1	3.4	0.7	3.9	3.9
女性	593	23.9	33.6	18.2	21.4	17.5	31.0	34.1	29.0	22.6	4.9	8.6	0.7	0.5	5.6	4.7
年代別																
20歳代	56	23.2	50.0	32.1	14.3	14.3	35.7	28.6	21.4	23.2	5.4	5.4	1.8	0.0	1.8	1.8
30歳代	94	19.1	43.6	21.3	24.5	20.2	33.0	27.7	33.0	33.0	1.1	5.3	3.2	0.0	3.2	1.1
40歳代	159	25.2	47.8	17.6	25.2	15.1	31.4	29.6	33.3	17.0	5.7	7.5	3.1	0.0	1.3	2.5
50歳代	181	22.1	37.6	22.1	20.4	19.9	35.9	34.3	34.8	22.1	8.8	7.2	1.7	0.6	2.2	2.2
60歳代	240	33.3	28.8	18.8	19.6	17.9	28.8	36.3	27.1	26.7	7.1	8.3	1.3	0.8	4.2	4.6
70歳以上	279	33.3	22.6	16.8	9.3	16.1	26.2	28.0	24.7	21.1	5.4	9.7	1.1	1.1	10.4	8.6

## 8. 女性が職業を持つことについての考え方

問 1 1 女性が職業をもつことについて、あなたの考えに近いものをお選びください。  
(○は1つ)

▶ 「子どもができたらいったん退職し、子育てが落ち着いた後再就職する方がよい」が 43.4%

女性が職業をもつことに対する考え方について質問したところ、「子どもができたら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再び職業をもつ方がよい」が 43.4%と最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が 31.9%となっており、両方を合わせると 75.3%が基本的には職業は継続した方がよいと答えている。長崎県調査（H26年）と比較すると、「子どもができたら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再び職業をもつ方がよい」は減少し（51.2%→43.4%）、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」がやや増加した（26.4%→31.9%）。

内閣府調査（R1年）と比較すると、全国では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」の割合は 61.0%と本県を大きく上回っている。

年代別にみると、「子どもができたら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再び職業をもつ方がよい」は 60 歳代で特に高く約 5 割を占めている。

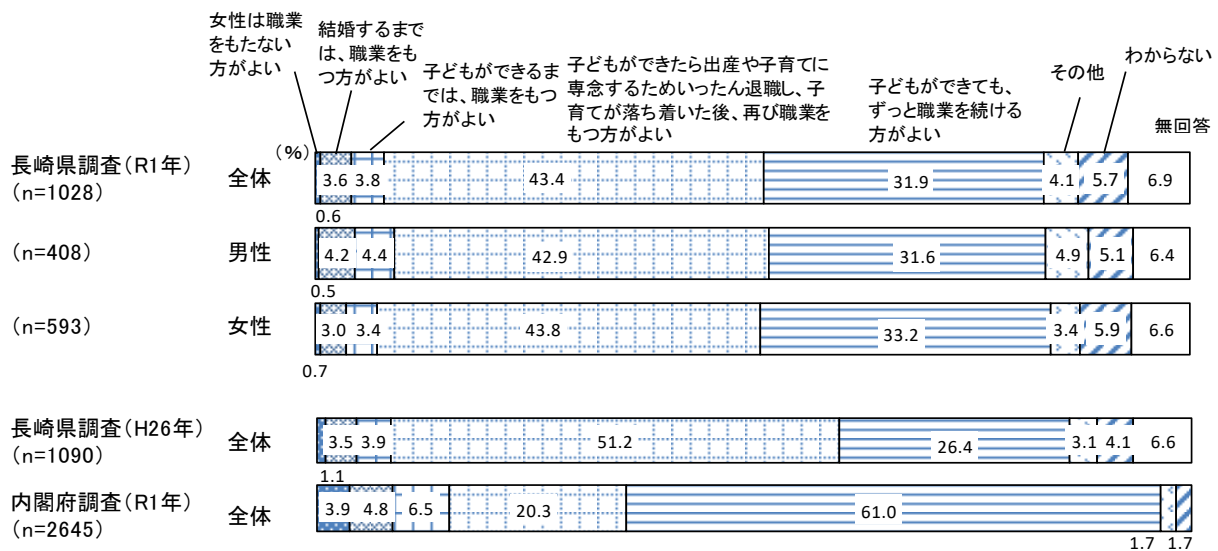


図 3-10 女性が職業をもつことについての考え方

表3-10 女性が職業をもつことについての考え方

標本数		女性は職業をもたない方がよい	よ結婚するまでは、職業をもつ方が	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	子どもができたら出産や子育てに専念する方がいい	子どもが落ちついた後、再び職業を	子どもができて、ずっと職業を続ける方がいい	その他	わからない	無回答
		%	%	%	%	%	%	%	%	%
全体	人 1028	0.6	3.6	3.8	43.4	31.9	4.1	5.7	6.9	
性別	男性	408	0.5	4.2	4.4	42.9	31.6	4.9	5.1	6.4
	女性	593	0.7	3.0	3.4	43.8	33.2	3.4	5.9	6.6
年代別	20歳代	56	0.0	3.6	8.9	37.5	26.8	8.9	10.7	3.6
	30歳代	94	0.0	1.1	1.1	42.6	40.4	6.4	8.5	0.0
	40歳代	159	0.0	2.5	1.3	42.1	40.3	5.7	5.7	2.5
	50歳代	181	0.0	1.7	2.8	42.0	39.2	3.9	5.5	5.0
	60歳代	240	1.3	2.5	4.6	49.6	29.2	3.8	2.1	7.1
	70歳以上	279	1.1	7.2	5.0	42.3	24.4	1.4	6.5	12.2

## 9. 女性が再就職をするために必要なこと

問11-1 問11で2～7と回答した方へお尋ねします。(2.結婚するまでは、職業をもつ方がよい 3.子どもができるまでは、職業をもつ方がよい 4.子どもができたら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再び職業をもつ方がよい 5.子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい 6.その他 7.わからない)

出産や子育て等に専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再就職を希望する女性が増えています。あなたは今後、女性が再就職するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

### ▶女性の再就職に必要とされている「再雇用制度の普及促進」55.5%

女性が再就職するために必要なことについては、「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」が55.5%と最も多く、次いで「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する」が50.3%、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」が45.4%、「女性が働くことに対する、家族や職場など周囲の理解・協力を深める」が37.6%となっている。

性別にみると、「育児や介護のための施設やサービスを充実する」「採用の年齢制限の廃止や緩和を促進する」については、女性が男性より高い比率を示しており、「結婚・出産などによる退職者の再雇用制度を普及促進する」は男性が女性を上回っている。

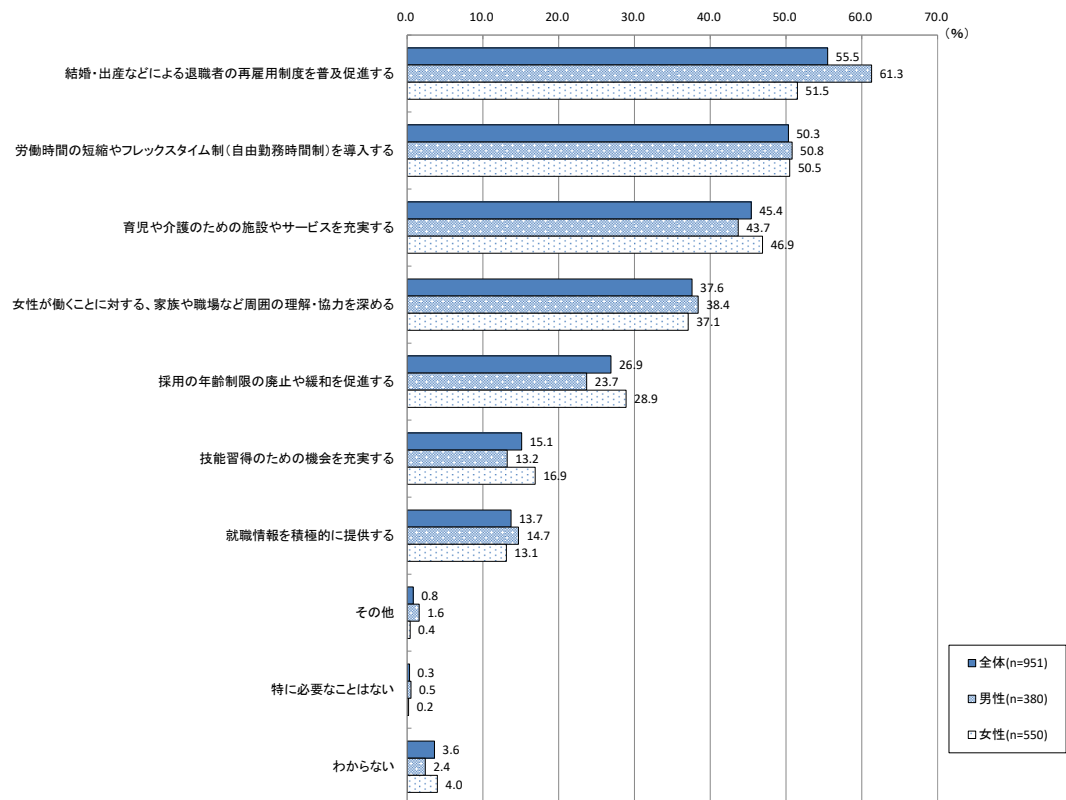


図 3-11 女性が再就職をするために必要なこと

表3-11 女性が再就職するために必要なこと

標本数		就職情報を積極的に提供する	技能習得のための機会を充実する	雇用制度を普及促進する	結婚・出産などによる退職者の再雇用制（自由勤務時間制）を導入する	労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）を導入する	採用の年齢制限の廃止や緩和を促進する	職場など周囲の理解・協力を深める	女性が働くことに対する、家族や育児や介護のための施設やサービスを充実する	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答
		人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
全体		951	13.7	15.1	55.5	50.3	26.9	37.6	45.4	0.8	0.3	3.6	5.8
性別	男性	380	14.7	13.2	61.3	50.8	23.7	38.4	43.7	1.6	0.5	2.4	5.0
	女性	550	13.1	16.9	51.5	50.5	28.9	37.1	46.9	0.4	0.2	4.0	6.4
年代別	20歳代	54	9.3	3.7	61.1	51.9	25.9	40.7	40.7	1.9	0.0	1.9	1.9
	30歳代	94	10.6	18.1	63.8	62.8	20.2	36.2	45.7	1.1	0.0	3.2	3.2
	40歳代	155	12.9	18.1	57.4	56.8	27.7	38.7	39.4	1.3	1.3	2.6	3.9
	50歳代	172	17.4	16.9	51.7	53.5	36.0	37.8	50.6	1.2	0.0	1.7	4.1
	60歳代	220	14.5	13.6	60.5	48.2	27.7	39.1	42.3	0.9	0.0	2.7	8.2
	70歳以上	242	13.2	15.3	48.8	41.7	21.9	34.7	49.2	0.0	0.4	6.2	7.9

## 10. 継続して女性が働くために必要なこと

問11—2 問11で2～7と回答した方へお尋ねします。(2.結婚するまでは、職業をもつ方がよい 3.子どもができるまでは、職業をもつ方がよい 4.子どもができたら出産や子育てに専念するためいったん退職し、子育てが落ち着いた後、再び職業をもつ方がよい 5.子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい 6.その他 7.わからない)

出産や子育て等により退職することなく、継続して女性が働くには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

▶女性の継続雇用に必要なとされていることは「労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する」が38.8%

出産や子育て等により退職することなく、継続して女性が働くために必要なことについて質問したところ、「労働時間の短縮やフレックスタイム制(自由勤務時間制)を導入する」が38.8%と最も多く、次いで「育児休業・介護休業等の制度を充実させる」が37.6%、「長時間労働や残業の習慣を改める」が36.9%、「企業経営者や職場の理解を深める」が29.7%となっている。

性別にみると、「長時間労働や残業の習慣を改める」「パートナー(男性)の理解・協力を得られるようにする」は、女性が男性より5ポイント以上高い比率を示している。一方、「賃金・昇進・昇格における男女格差をなくす」「結婚・出産退職等の慣行を改める」は男性が女性を上回っている。

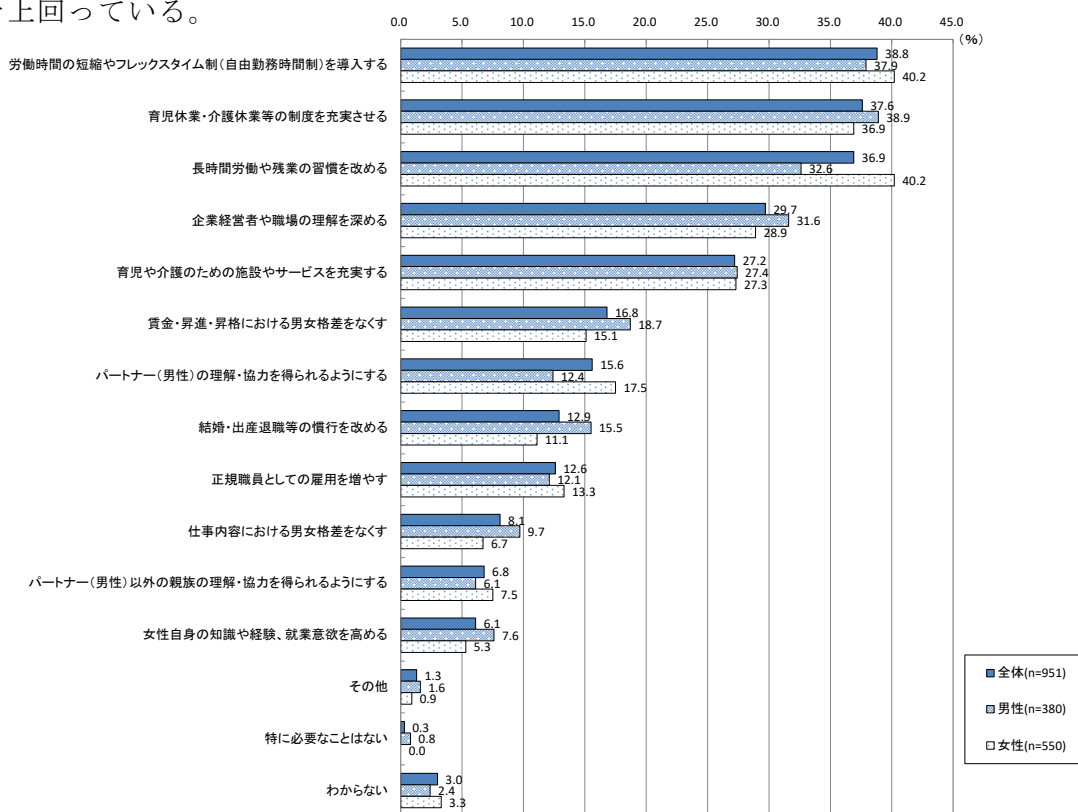


図 3-12 継続して女性が働くために必要なこと



表3-12 継続して女性が働くために必要なこと

標本数	結婚・出産退職等の慣行を改める	賃金・昇進・昇格における男女格差をなくす	仕事内容における男女格差をなくす	長時間労働や残業の習慣を改める	労働時間の短縮やフレックスタイム制（自由勤務時間制）を導入する	企業経営者や職場の理解を深める	育児休業・介護休業等の制度を充実させる	正規職員としての雇用を増やす	育児や介護のための施設やサービスを充実する	パートナー（男性）の理解・協力を得られるようにする	パートナー（男性）以外の親族の理解・協力を得られるようにする	女性自身の知識や経験、就業意欲を高める	その他	特に必要なことはない	わからない	無回答		
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
全体	951	12.9	16.8	8.1	36.9	38.8	29.7	37.6	12.6	27.2	15.6	6.8	6.1	1.3	0.3	3.0	6.7	
性別	男性	380	15.5	18.7	9.7	32.6	37.9	31.6	38.9	12.1	27.4	12.4	6.1	7.6	1.6	0.8	2.4	6.6
	女性	550	11.1	15.1	6.7	40.2	40.2	28.9	36.9	13.3	27.3	17.5	7.5	5.3	0.9	0.0	3.3	6.7
年代別	20歳代	54	7.4	14.8	14.8	53.7	35.2	20.4	48.1	14.8	18.5	11.1	7.4	3.7	1.9	0.0	3.7	1.9
	30歳代	94	16.0	22.3	7.4	39.4	48.9	35.1	41.5	11.7	29.8	11.7	7.4	1.1	3.2	0.0	2.1	2.1
	40歳代	155	14.2	16.1	5.2	32.9	49.7	30.3	33.5	11.6	23.9	16.1	7.7	5.2	2.6	1.3	1.9	6.5
	50歳代	172	13.4	17.4	9.3	35.5	44.8	33.7	36.6	17.4	30.2	18.0	6.4	4.7	1.2	0.0	1.7	3.5
	60歳代	220	10.0	12.3	6.4	35.5	33.6	33.6	38.2	13.2	30.5	20.0	7.3	5.9	0.0	0.0	1.4	10.0
	70歳以上	242	13.6	19.4	9.1	37.6	30.2	23.6	37.6	9.5	25.6	11.6	5.8	10.7	0.4	0.4	5.8	9.1

## 1 1. 男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用すること

問 1 2 あなたは、男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用することについてどう考えますか。(○は1つずつ)

(1) 育児休業について

▶ 「育児休業制度」は「どちらかといえば取ったほうがよい」が 43.4%

男性が「育児休業制度」を利用することについて質問したところ、「どちらかといえば取ったほうがよい」が 43.4%と最も多く、次いで「積極的に取ったほうがよい」が 34.1%、「どちらかといえば取らないほうがよい」が 8.1%となった。

性別にみると、「どちらかといえば取ったほうがよい」は男性の比率が、「積極的に取ったほうがよい」は女性の比率がやや高い。

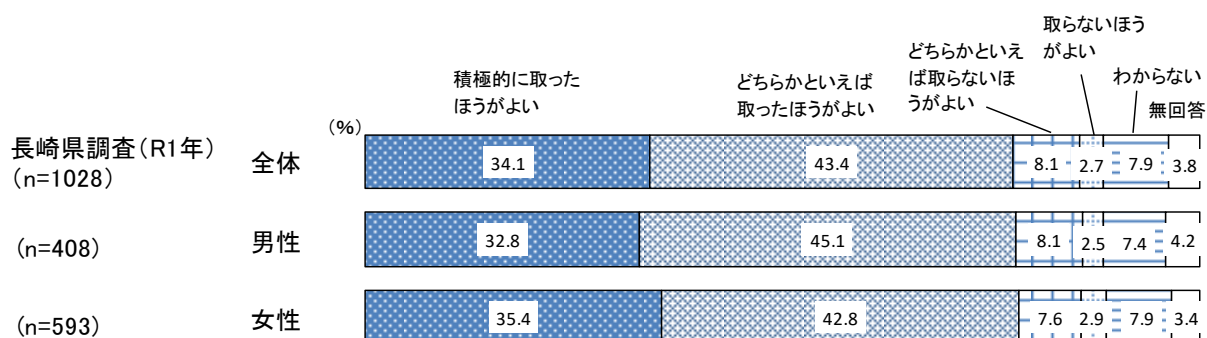


図 3-13① 男性が育児休業制度を利用すること

(2) 介護休業について

▶ 「介護休業制度」は「どちらかといえば取ったほうがよい」が44.0%

男性が「介護休業制度」を利用することについて質問したところ、「どちらかといえば取ったほうがよい」が44.0%と最も多く、次いで「積極的に取ったほうがよい」が38.5%、「わからない」が7.8%となった。

性別にみると、「どちらかといえば取ったほうがよい」では男性、「積極的に取ったほうがよい」では女性の比率がやや高かった。

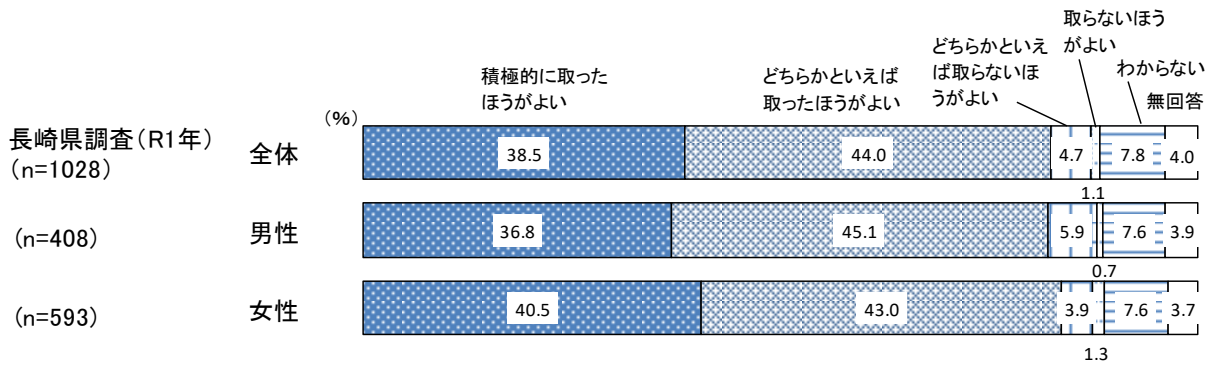


図 3-13② 男性が介護休業制度を利用すること

表3-13 男性が「育児休業制度・介護休業制度」を利用すること

	標本数	積極的に取ったほうがよい	どちらかといえば取ったほうがよい	どちらかといえば取らないほうがよい	取らないほうがよい	わからない	無回答		
		人	%	%	%	%	%		
育児休業	全体	1028	34.1	43.4	8.1	2.7	7.9	3.8	
	性別	男性	408	32.8	45.1	8.1	2.5	7.4	4.2
		女性	593	35.4	42.8	7.6	2.9	7.9	3.4
	年	20歳代	56	48.2	37.5	5.4	0.0	8.9	0.0
	代	30歳代	94	41.5	36.2	9.6	4.3	7.4	1.1
	別	40歳代	159	34.0	47.2	6.3	5.0	5.0	2.5
		50歳代	181	37.6	41.4	9.4	0.6	8.3	2.8
		60歳代	240	30.4	48.8	8.3	2.9	7.5	2.1
	70歳以上	279	29.7	42.7	7.9	2.5	9.3	7.9	
介護休業	全体	1028	38.5	44.0	4.7	1.1	7.8	4.0	
	性別	男性	408	36.8	45.1	5.9	0.7	7.6	3.9
		女性	593	40.5	43.0	3.9	1.3	7.6	3.7
	年	20歳代	56	44.6	48.2	3.6	0.0	3.6	0.0
	代	30歳代	94	51.1	30.9	6.4	2.1	8.5	1.1
	別	40歳代	159	39.6	46.5	4.4	1.3	6.3	1.9
		50歳代	181	45.3	40.9	3.9	0.6	6.6	2.8
		60歳代	240	32.9	48.8	4.6	1.7	8.8	3.3
	70歳以上	279	33.3	43.7	5.4	0.7	9.0	7.9	

